

<b>科目名：人体の構造と機能 I</b>		必	2 単位
( Human Anatomy & Physiology [ I ] ) 履修年次/時期：1 年次 前期 授業形態：講義 担当教員：前畑洋次郎（実務経験なし）、飯村彰（実務経験有り）、小口岳史（実務経験有り）			
学修目的	解剖学と生理学は、医学の体系の中でも基礎中の基礎となる専門分野である。人体の正常な構造と機能に基づいて病気の成り立ちが理解され、診断と治療・看護が行われる。医療行為には、人体への様々な介入が含まれるため、人体の構造と機能についての正確な理解がなければ、その医療行為そのものが害悪をもたらすことになりかねない。本科目において、解剖学では人体の形態と構造（つくり）を学び、生理学ではその役割と機能（はたらき）を学び、人体において営まれている様々な生命現象を理解する。人体の構造と機能 [ I ] と人体の構造と機能 [ II ] で生命を維持する植物機能と生命を積極的に活用する動物機能、および生命の連続性の生殖機能について理解する。  DP1-(1)、2-(1)、2-(2)および CP 2、3、4 に関連する。科目 NO. KSI-113		
到達目標	① 「人体とはどのようなものか」：人体の階層的構造について説明でき、各器官系の連携による生命維持のしくみが説明できる。 ② 「身体の支持と運動」：骨格筋の種類と骨の種類が云え、筋肉の収縮機構について説明できる。また、骨の構造、骨形成と骨吸収の機構について説明できる。 ③ 「栄養の消化と吸収」：消化器系の構成・構造と機能が説明でき、吸収された栄養素の代謝について説明できる。 ④ 「呼吸器系と血液のはたらき」：呼吸器系の構成・構造と機能および調節機構が説明できる。 ⑤ 「血液の循環とその調節」：血液の組成と各々の成分のはたらきが説明でき、循環器系の構成・構造と機能と調節機構が説明できる。 ⑥ 「体液の調節と尿の生成」：腎臓の構造と機能が説明でき、排尿のしくみが説明できる。		
授業概要	人体を構成する基本的構造および生命維持のための身体のしくみを総合的に理解する。人体の構造と機能 I では、食べる、息をする、恒常性を維持するための物質の流通について学習する。人体において営まれている様々な生命現象のうち、生命の維持に深く関与する血液循環、呼吸、消化・吸収、代謝、排泄、内蔵調節機構について解説する。		
評価方法	学期末試験 90%、課題 10% ＊学期末試験は各章の到達目標の到達度を確認する目的で実施する。また、課題は教科書「解剖生理学ノート」の作成と活用を評価する。 試験に対するフィードバックは掲示で行う。		
予習・復習時間	【予習】2 時間 【復習】2 時間		
教科書	① 系統看護学講座 専門基礎分野「解剖生理学」人体の構造と機能 1 医学書院 （科目・人体の構造と機能 [ II ] と共用） ② 解剖生理学ノート サイオ出版 （科目・人体の構造と機能 [ II ] と共用）		
参考書	らくらく学べて、臨床に生かせる「解剖生理」ポイントブック 昭林社		
オフィスアワー・連絡先	小口 岳史 oguchi@kdu.ac.jp 16：30～18：00 3号館3階 総合教育部 不在時はメールをお願いします。 飯村 彰 iimura@kdu.ac.jp 前畑 洋次郎 月～金曜日 16；30-17：00 場所未定：前畑研究室 maehata@kdu.ac.jp 出張などでオフィスアワーに不在の場合はメールを入れて下さい。maehata@kdu.ac.jp		